

農道除雪

男の友情が  
冬を支えていた

成田 光秋

山田地区在住でリンゴ農家を  
営む、今は温厚な58歳。30代前  
半まではJA相馬村の職員とし  
て農家を支え、現在に至る。

沢口 義明

紙漣沢地区在住でリンゴ農家  
を営むイケイケな59歳。獅子舞  
保存会副会長としても活躍し、  
月夜を舞っている。

# 雪害から守る

相馬地区は津軽富士が雪化粧をすると、冬の到来を感じるとともに気温も下がる日が続く。気づけば空からは「雪」が舞い降りて園地一面は白く染まり、剪定の時期がやってくる…。

剪定はリンゴ生産において、最も重要視されていると言っても過言ではない。また、収穫量を上げ



息の合った二人による除雪で今日も道が切り開く



ロータリーの操縦席には多数のスイッチが



綺麗に除雪された農道

が誇る「スノーペガサス」の名を持つ英雄だ。

J A 相馬村は平成25年から農道の除雪を開始し、「弘前市りんご樹雪害対策農道等除雪事業」を活用している。二人がこの大役を務め、冬の農家を支えていることから、枝折れ防止作業及び消雪作業の促進が図られている。この取り組みは、相馬地区がいち早く取り入れたことをご存じだろうか。当JAが組合員と一体となって冬を乗り越え、新年度に向けたリンゴ生産に力を入れているのだ。

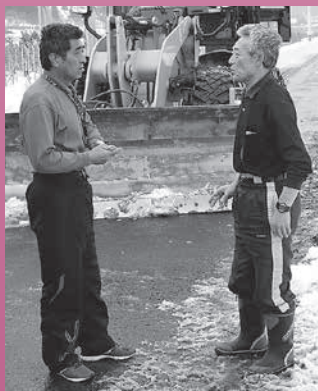


防風網には細心の注意を払って除雪（特にワイヤー）

# 相馬を知り尽くす

## 二人の絆

二人は10代からの先輩後輩の仲で、40年以上の付き合いだといっつ。バイクで一緒に青春時代を駆け抜けた頃が懐かしいと語ってくれた。共に走った道は記憶として今も残り、相馬を知り尽くしているからこそ雪で閉ざされた場所でも道が切り開かれていく。また、段差や障害物、園地や水田の脇を流れる水路を把握して行う除雪作業は、長年の知識と経験がなければ容易にはできない。ホイールローダーとロータリーを操り、二人三脚で作業を進める二人の友情と信頼関係は除雪後のアスファルトに示されていた。この二人によって、生産者は今日も園地に足が運びやすくなっている。



ミーティングは欠かせない